

「スティーラー・ストール・ストールン」

— 2 稿 —

2026/01/23

山極 瞭一朗

〈人物表〉

浅見 比奈 あさみ ひな

(29)

怪盗

浅見 紀菜 あさみ きな

(25)

比奈の妹

東雲 元氣 しののめ げんき

(8)

万引き少年

警備員

1. 美術館・外観（夜）

消灯し、真っ暗な建物。
屋根を、人影が駆け抜ける。

2. 美術館・防災センター（夜）

モニターには、防犯カメラの映像が映し出されている。

警備員たちはモニターに目もくれずに談笑している。
すると、ひとりが徐に立ち上がって、

警備員「巡回行ってきました」

懐中電灯片手に、気だるげに出ていく。

3. 美術館・階段・廊下（夜）

警備員は懐中電灯を照らしながら階段を降りる。そのまま廊下を進んでいく。

その背後で、人影が通り過ぎる。

警備員、気配を感じ、振り返る。ライトを照らす、誰もいない。

ふっと息を吐き、踵を返し進む。

柱の陰では、浅見比奈（29）が警備員の背を見つめている。真っ黒な衣装に鬼のお面。
片耳には小型

のイヤホン。

うざったそうにお面を外して、

比奈 「あつつい」

イヤホンから浅見紀菜（25）の声。

紀菜の声 「ちよっとお姉ちゃん」

比奈、さっと顔を歪めて、イヤホンに手を当て、

比奈 「うるさ」

紀菜の声 「カメラ、気をつけてよ」

陽菜、さっと防カメを見上げて、

比奈 「大丈夫、死角だから」

紀菜の声 「緊張感ないな」

比奈 「いっつも緊張しすぎなんだよ」

紀菜の声 「別にそんなじゃないし」

比奈 「はいはい、じゃ、行きますか」

紀菜の声 「……慎重にね」

比奈 「わかってるって」

と、汗を拭い、お面をつける。

4. 美術館・展示室（夜）

真っ暗な室内。中央にあるショーケースのみ、ライトが灯されている。

その中には、骨董品。

『東洲斎喜重右エ門茶器』とある。

5. 美術館近くの道（夜）

路肩に軽自動車が停車中。

6. 停車中の車内（夜）

運転席で、紀菜はPCを操作している。

紀菜「制限時間は5分」

画面、展示室や防災センターの映像が映し出されている。

比奈が展示室に入る。と、その瞬間、映像が切り替わり、無人に。

紀菜「フライング」

7. 美術館・展示室（夜）

比奈、ショーケースの前に立っている。

比奈 「バレた？」

紀菜の声 「大丈夫だけど」

比奈 「なら問題なし」

比奈、指をポキポキと鳴らしながら、ショーケースの裏に回る。

比奈 「で、どうすればいい？」

暗証番号を入力するタッチパネルと、鍵穴。

紀菜の声 「4桁の数字を3セット入力したのち、鍵穴に専用の鍵を差し込む」

比奈 「番号わかってんだよね」

紀菜の声「もちろん」

比奈 「さすが我が妹。じゃあ、あとはこっちだけね」

と、お面の位置を正し、懷からピッキング道具を取り出す。

8. 美術館近くの道（夜）

軽自動車が路肩に停まっている。

比奈、向こうから走って来る。その手にはコンビニの袋。

が、不意に立ち止まり、美術館を見つめる。

その憂いを帯びた瞳。

運転席から紀菜は怪訝そうに比奈を一瞥。

比奈、何事もなかったかのようにふっと笑みをこぼし、車に向かう。

9. 停車中の車内（夜）

運転席の紀菜、PCを閉じる。

助手席に比奈が乗り込む。コンビニ袋を後部座席に置く。

袋の隙間から茶器とお面が覗く。

紀菜 「ちよっと、丁寧に扱ってよ」

比奈 「そんなすごいのか？」

紀菜 「ほんと疎いんだから」

比奈、ニタッと笑う。

紀菜 「でも、お疲れ様」

比奈 「うちに盗めないものはないね」

比奈、紀菜と半ば強引にハイタッチ。

紀菜、苦笑して、車を発進させる。

10. 美術館・展示室（夜）

警備員たちはショーケースを囲んでいる。

茶器のあった場所には、はがきサイズの厚紙が1枚。『お宝は頂戴した ミスターシスター』。ピンク色

の鬼のマークのロゴ。

11. 芝浦・実景（夜）

東京タワーや芝浦ふ頭など。

12. 道路（夜）

軽自動車が駆け抜ける。

13. 動く車内（夜）

ハンドルを握る紀菜、助手席の比奈をチラッと見て、

紀菜 「最近緊張感ないね」

比奈 「緊張しす——」

紀菜 「わざと？」

比奈 「何が？」

紀菜 「カメラ。バレようとしてる？ 捕まり——」

比奈 「待って待って」

前方の信号、赤。

紀菜はブレーキを踏む。

比奈 「何の心配？」

紀菜 「この仕事、やめたいのかなって」

比奈、紀菜を見つめて意味深に微笑む。そしてすぐに視線を逸らし、窓の外を漠然と見つめる。

14. スーパー・店内（昼）

比奈、カートを押しながら店内を練り歩いている。すると、お菓子コーナーにいる少年を視界に捉える。東雲元氣（8）は辺りをキョロキョロしている。目の前にはチョコレート菓子。と、さっとお菓子を手に取り、服の中に隠す。比奈、ハッとして息を呑む。元氣、再度周囲を確認して、そそくさと立ち去ろうとするが……

比奈「待って」

元氣はビクッとして駆け出す。

比奈 「あ、ちょ……」

比奈も慌てて追いかけて、角を曲がる。
ちょうど元気が紀菜に衝突する。

紀菜 「ごめんね、大丈夫？」

比奈 「紀菜」

元気は咄嗟に逃げようとする。

比奈 「捕まえて、その子」

紀菜、言われるがまま元気の腕を掴む。

比奈 「さすが我が妹」

紀菜 「どゆこと？」

元気の服の中から、ぽてっとお菓子が落ちる。

15. スーパー・駐車場（昼）

軽自動車の前に比奈と紀菜と元気。

もじもじする元気の前に、比奈はしゃがんで、お菓子を差し出す。

比奈 「はい、これ」

紀菜、元気の頭を優しく撫でて、

紀菜 「お姉ちゃんからのプレゼントだって」

比奈 「おいしいよね、私もこれ好きだよ」

元気、こっくりと頷く。

比奈、にっこりと笑って、お菓子を握らせる。

元気 「……ありがとう」

比奈 「もうしないって約束できる？」

元気 「……うん」

比奈 「人の物を盗むのは悪いことだから」

紀菜、物憂げに比奈を見つめる。

元気 「ごめんなさい」

比奈 「じゃあ、約束ね」

と、元気に小指を差し出す。

元気、徐に指切りをする。

比奈 「よし、いい子だ」

と、微笑んで、元気の頭を撫でる。

元気、僅かに笑みを見せる。

× × ×

去り行く元氣を見ている比奈と紀菜。

紀菜 「らしくないね」

比奈 「ん？」

紀菜 「万引き少年を捕まえるなんて」

と、頬を歪めて苦笑、

紀菜 「やっぱり」

比奈 「ん？」

紀菜 「……いいよ、私は」

比奈 「どした、どした。最近変だね」

紀菜 「お姉ちゃん」

比奈 「……何よ？」

紀菜 「私はいいよ。やめるって言うなら」

比奈、ふっと微笑んで助手席側に回る。ひとり呟くように、

比奈 「……やめたくても、やめらんないでしょ」

紀菜、不安げに比奈を見つめる。

比奈、助手席に乗り込み、シートベルトを締める。

比奈 「ほら、行くよ」

紀菜、ため息を漏らし、運転席に乗り込む。比奈を一瞥し、何か言おうとするが躊躇って……

紀菜 「……」

比奈、紀菜の視線から逃れるように、窓の外に目を向ける。

紀菜、車を発進させる。

16. コンビニ・店内（昼）

元氣、ドリンクを物色中。周囲をキョロキョロと見渡して、さっと1本を手取る。バックにしようと、走って出ていく。